

## 中級試験おためし問題 A / (なんとA)問題)

問一 次の文は、「開目抄」・「顕仏未来記」・「四条金吾殿御消息」が著わされた背景について述べられています。文中の[ ]には適当な言葉を、後の語群から選び、記号で答えなさい。ただし、語群がすべてあてはまるとはかぎりません。また、( )には御書名をそれぞれ記入しなさい。

文応元年七月、大聖人は『( )立正安国論( )』をもって幕府を諫めさるるが、幕府は聞き入れざるどころか、翌八月には[ ]の草庵を焼き打ちにし、翌弘長元年五月には[ ]の[ ]へ流罪したのである。弘長三年になって、大聖人は赦免されて鎌倉へ帰られたが、翌文永元年十一月、安房の[ ]で傷を負うなど、大聖人に対する迫害は激しくなる一方であった。

そして、文永八年九月十日、日ごろ大聖人を最も憎んでいた[ ]頼綱が執権職代理として、幕府の奉行所に呼び出し、前執権であった北条時頼・重時を「無間地獄におちた」といいふらしているとの嫌疑で取り調べを行った。また、怒りに狂った[ ]は数百人の家来を引き連れて、松葉ヶ谷の草庵に押し入り大聖人を捕え、その際少輔房が法華経第五の巻で大聖人の頭を打ちすえたのである。十二日夜半、大聖人は[ ]へと向かわれ、頸の座にのぞまれる。途中、由比ヶ浜からお供したのは『( )開目抄( )』の対告衆となった[ ]である。

翌日、大聖人はひとまず相模国依智の本間六郎左衛門の館に移されことになる。滞在中に著わされたのが『( )四条金吾殿御消息( )』である。

十一月一日[ ]の[ ]三昧堂に入られた。[ ]での生活は筆舌に尽くしがたいものであり、その中でただお一人大聖人のお供をされたのが[ ]である。一度流罪されれば、とうてい生きては帰れぬといわれるところで、まさに、死罪同様ののである。

翌年一月十六日には、[ ]の周りの国々から念仏・真言などの僧が集まっていた。[ ]問答が行われた。同年二月、こうした状況の中で著わされたのが『( )開目抄( )』である。さらに同じ頃、かねてから大聖人が『( )立正安国論( )』で予言されていた[ ]難が現実に取りきたのである。これが世にいう「二月騒動(北条時輔ときすけの乱)」である。

翌文永十年五月、[ ]で著わされたのが『( )顕仏未来記( )』と『如説修行抄』である。翌文永十一年二月には、ついに赦免となり、三月二十六日に鎌倉に無事に帰られたのであった。

語群 (ア、竜の口 イ、伊豆 ウ、伊東 エ、小松原 オ、塚原 カ、一谷  
キ、佐渡 ク、松葉ヶ谷 ケ、日興上人 コ、四条金吾 サ、平左衛門尉  
シ、立正安国論 ス、自界叛逆 セ、日蓮大聖人)

問二 次の「顕仏未来記」の御文について、あとの問いに答えなさい。

『日蓮此の道理を存して既に二十一年なり、日來の災・月來の難・此の両三年の間の事既に死罪に及ばんとす今年・今月万が一も脱がれ難き身命なり、世の人疑い有らば委細の事は弟子に之を問え、幸なるかな一生の内に無始の謗法を消滅せんことを悦ばしいかな未だ見聞せざる教主釈尊に侍え奉らんことよ、願くは我を損ずる国主等をば最初に之を導かん、我を扶くる弟子等をば釈尊に之を申さん、我を生める父母等には未だ死せざる已前に此の大善を進めん、但し今夢の如く[ ]の心を得たり、

此の経に云く「若し須弥を接つて他方の無数の仏土に擲げ置かんも亦未だ為難しとせず乃至若し仏の滅後に悪世の中に於て能く此の経を説かん是れ則ち為難し」等云云、[ ]云く「浅きは易く深きは難しとは釈迦の所判なり」[ ]は釈迦に信順

し法華経を助けて震旦に敷揚し・叡山の一家は天台に相承し法華宗を助けて日本に弘通す」等云云、安州の日蓮は恐くは三師に相承し法華宗を助けて末法に流通す三に一を加えて三國四師と号く』

① 御文の [ ] にあてはまることばや御文を答えなさい。

② 次の文は、「顕仏未来記」の大意について述べられています。文中の [ ] にあてはまる適当な言葉を後の語群から選び記号で答えなさい。

[ ] の [ ] を [ ] す」との題号の通り、まず大聖人が [ ] の [ ] のことごとくを裏証されたことを述べられ、御自身が末法の [ ] であることを大確信をもって宣言せられ、さらに大聖人御自身の [ ] が示されています。

語群（ア、未来記 イ、御本仏 ウ、顕 エ、釈尊 オ、仏）

③ 傍線アと傍線エについて、次の「聖人御難事」の御文の [ ] にあてはまることばを答えなさい。  
傍線アについて

「去ぬる [ ] 年太歳癸丑 [ ] 月 [ ] 日に安房の国長狭郡の内東条の郷・今は郡なり、（中略）此の郡の内 [ ] と申す寺の諸仏坊の持仏堂の南面にして、午の時に此の [ ] 申しはじめて今に二十七年」  
（御書全集一一八九頁）

傍線エについて

[ ] は四十余年、 [ ] 大師は三十余年、 [ ] 大師は二十余年、出世の本懐を遂げ給う」  
（御書全集一一八九頁）

④ 傍線イの意味（語訳）を答えなさい。

[ ]

問三 「四条金吾殿御消息」の御文について、あとの問いに答えなさい。

『度度の御音申しつくしがたく候、さても・さても去る十二日の難のとき貴辺たつのくちまで・つれさせ給い、しかのみならず腹を切らんと仰せられし事こそ不思議とも申すばかりなけれ、日蓮過去に妻子・所領・眷属等の故に身命を捨てし所いくそばくか・ありけむ、或は山にすて海にすて或は河或はいそ等・路のほとりか、然れども法華経のゆへ題目の難にあらざれば捨てし身も蒙る難等も成仏のためならず、成仏のためならざれば捨てし海・河も仏土にもあらざるか。今度法華経の行者として流罪・死罪に及ぶ、流罪は [ ] ・死罪は [ ] ・相州の [ ] こそ日蓮が命を捨てたる処なれ仏土におとるべしや、其の故は・すでに法華経の故なるがゆへなり、経に云く「十方仏土中唯一乗法」と此の意なるべきか、此の経文に [ ] と説き給うは法華経の事なり、十方仏土の中には法華経より外は全くなきなり除<sup>カ</sup>仏方便説と見えたり、若し然らば [ ] が難にあう所ごとに仏土なるべきか、娑婆世界の中には日本国・日本国の中には相模の国・相模の国の中には片瀬・片瀬の中には竜口に日蓮が命をとどめをく事は [ ] の御故なれば [ ] ともいふべきか、 [ ] 品に云く「若於林中若於園中若山谷曠野是中乃至而般涅槃」とは是か』

① 文中の [ ] にあてはまることばを答えなさい。

② 傍線アについて、次の「下山御消息」の御文の [ ] にあてはまることばを答えなさい。

[ ] に都て二分の科もなくして佐土の国へ流罪せらる、外には遠流と聞えしかども内には頸を切ると定めぬ」(御書全集二五六頁)

③ 傍線イについて、次の「四条金吾殿御返事」の御文の [ ] にあてはまることばを答えなさい。

[ ] 年の御勘気の時・既に相模の国・ [ ] にて [ ] 切られんとせし時にも殿は [ ] の口に付いて足歩赤足にて泣き悲み給いし事実にならば [ ] きらんとの気色なりしをば・いつの世にか思い忘るべき」(御書全集一一九三頁)

④ 傍線ウの本義について、次の文の [ ] にあてはまることばを後の語群から選び記号で答えなさい。

「 [ ] としての生命であり、 [ ] の再誕としての [ ] の姿を払って、本地 [ ] 如来と現れ、末法の [ ] の姿を顕されたことすなわち、 [ ] を示している」

語群 (ア、発迹顕本 イ、御本仏 ウ、凡夫 エ、上行菩薩 オ、久遠元初自受用身

カ、垂迹)

⑤ 傍線エについて、この経品名を答えなさい。

[ ] 品第 [ ]

⑥ 傍線オ・カについて、次の文の [ ] にあてはまることばを答えなさい。

「十方仏土中 唯一乘法 無二亦無三 除仏方便説 但以仮名字 引導於衆生」は、次のように読む。

[ ] の [ ] には [ ] のみ [ ] なく [ ] し

[ ] の [ ] の [ ] をば [ ] なく [ ] の [ ] を [ ] って [ ] を [ ] したもう」

問四 「開目抄」の御文について、あとの問いに答えなさい。

『詮ずるところは天もすて給え諸難にもあえ [ ] を期とせん、身子が六十劫の [ ] の行を退せし乞眼の婆羅門の責を堪えざるゆへ、久遠大通の者の三五の塵をふる [ ] に値うゆへなり、善に付け悪につけ法華経をすつるは地獄の業なるべし、大願を立てん日本国の位をゆづらむ、 [ ] をすてて観経等について後生をこそよ、父母の頸を刎ん念仏申さずば、なんどの種々の [ ] ・出来すとも [ ] に [ ] やぶられずば用いじとなり、其の外の大難・風の前の塵なるべし、我日本の柱とならむ我日本の眼目とならむ我日本の大船とならむ等とちかいし願やぶらるべからず』

① 文中の [ ] にあてはまることばを答えなさい。

② 傍線アについて、次の文の [ ] にあてはまることばを答えなさい。

大聖人は本抄で、「此国をすつるゆえになきかの世をばすて去りまほるべからずかるがゆへにをものにしるしなし還ってに値うべし」(御書全集二二一頁)と仰せになっている。

③ 傍線イの語訳について、次の文のにあてはまることばを答えなさい。

「塵点劫の昔に本果のに結縁して下種を受けた衆生」と「塵点劫の昔に出現したの十六人の王子(の過去世の姿)に結縁して下種を受けた衆生」の意。

④ 傍線ウ・エについて、日寛上人は「開目抄愚記」で次のように述べられています。文中のに「善」または「悪」のことばで答えなさい。

『日本国の位をゆずらむ』とたばかりはにつけてなり。『父母の頸を刎ん』とおどすはにつけてなり。これ世間の極・極を挙(あ)ぐるなり」(文段集二〇五頁)

⑤ 傍線オについて、次の文のにあてはまることばを答えなさい。

『日本の柱』とはの徳、『日本の眼目』とはの徳、『日本の大船』とはの徳を表し、大聖人がののであることを仰せになられている。

問五 次の文は、「如説修行抄」の題号および元意について述べられています。後の問いに答えなさい。

一、次の文は、日寛上人の『如説修行抄筆記』の題号の説明において、在世・滅後に通ずるとして、「人法相對に約す」「師弟相對に約す」「自行化他に約す」の三点から論じられています。

文中の **ア** **ケ** にあてはまる適当な言葉を語群から選び、後の解答欄に記号で答えなさい。

① 釈尊在世において

「人法相對に約す」とは、「如説」は **ア** に約し「修行」は **イ** に約すのである。

釈尊の在世においてこれをいえば、釈尊所説の一代の諸経は **ア** であり、その所説の如く自らこれを行ずるのが **ウ** である。釈尊の所説とは妙法蓮華経であり、修行とは、妙法蓮華経の修行である。

「師弟相對に約す」とは、「如説」とは **エ** の説くところであり、「修行」とは **オ** の実践に約すのである。**エ** の所説の如く **オ** が修行するのが **カ** である。在世においては釈尊の所説の如く、一会の大衆がこれを修行したのである。

「自行化他に約す」とは、「如説」は **キ** であり、「修行」は **ク** である。五種の修行のうち、受持・誦・誦・書写の四種の修行は自行であり、解釈は化他である。

② 釈尊滅後、末法の御本仏日蓮大聖人の仏法において

人法・師弟・自行化他の三つがある。宗祖大聖人の如く、口に **ケ** を説き、身に **ケ** を修行し、その所説の **ケ** を弟子檀那が修行するのである。弟子檀那に教えるのは **キ** であり、自ら修行するのは **ク** である。

《語群》

A、如説修行 B、人 C、自行 D、法 E、弟子 F、妙法 G、化他 H、師匠 J、修行

《解答欄》

- ① ア、( ) イ、( ) ウ、( ) エ、( )  
オ、( ) カ、( ) キ、( ) ク、( )  
② ケ、( )

二、次の文は、日寛上人の『如説修行抄筆記』において、本抄の元意について述べられています。文中の **ア** **ス** にあてはまる適当な言葉を語群から選び、後の解答欄に記号で答えなさい。

「当抄の元意は、**ア**・**イ**・**ウ**・**エ**の観心の中においては **エ** の **オ** であり、在世滅後の中には別して **カ** 今時の **オ** の **キ** が最も肝心なのであり、また題号には **ク** を含んでい

る。」と論じられ、  
「如説とは、能説、所説があり、所説は **ケ** であり、能説の教主は **コ** である。ゆえに、「説」の一字は、**サ** である。修行とは **シ** を修行すること、信じるがゆえに行ずるのであるから、これは **ス** の **シ** であり、「修行」の二字は本門の **シ** である。」と。

《語群》

A、三大秘法 B、人法の本尊 C、本迹 D、信行 E、題目 F、師弟人法 G、内外  
H、妙法蓮華経 J、日蓮大聖人 K、大小 L、如説修行 M、本門観心 N、末法

《解答欄》

ア、( ) イ、( ) ウ、( ) エ、( ) オ、( ) カ、( ) キ、( )  
ク、( ) ケ、( ) コ、( ) サ、( ) シ、( ) ス、( )

問六 次の「如説修行抄」の御文について、あとの問いに答えなさい。

『夫れ以んみれば [ ] 流布の時・生を此の土に受け此の経を信ぜん人は [ ] の在世より猶多怨嫉の難甚しかるべしと見えて候なり』

其の故は在世は能化の主は仏なり弟子又大菩薩・阿羅漢なり、人天・四衆・八部・人非人等なりといへども調機調養して [ ] を聞かしめ給ふ [ ] 多し、何に況んや末法今の時は教機時刻当来すといへども其の師を尋ねれば [ ] なり、弟子又鬪諍堅固・白法隠没・三毒強盛の悪人等なり、故に [ ] をば遠離し悪師には親近す、其の上真実の法華経の [ ] の行者の師弟檀那とならんには決定せり、されば此の経を聴聞し始めん日より思い定むべし況滅度後の大難の三類甚しかるべしと、然るに我が弟子等の中にも兼て聴聞せしかども大小の難来る時は今始めて驚き肝をけして信心を破りぬ、兼て申さざりけるか経文を先として猶多怨嫉況滅度後・況滅度後と朝夕教へし事は是なり・予が或は所を・をわれ或は疵を蒙り・或は兩度の御勘気を蒙りて遠国に流罪せらるるを見聞くとも今始めて驚くべきにあらざる物をや』

① [ ] にあてはまることばを答えなさい。

② 以下の傍線部の意味（語訳でもよい）を説明しなさい。

調機調養 ( )

鬪諍堅固 ( )

白法隠没 ( )

三毒強盛 ( )

③ 傍線部猶多怨嫉況滅度後を書き下し文にしなさい。

( )

④ 傍線ア・イ・ウについて、それぞれ相当する法難を答えなさい。

ア、( )

イ、( )

ウ、( )

問七 「如説修行抄」についての問いに答えなさい。

① 以下の事柄に相当する人物を後の語群から選び、記号で答えなさい。

ア、法華経のために、九横の大難にあわれた。( )

イ、法華経の故に、杖木瓦石の難をうけた。( )

- ウ、蘇山に流された。 ( )  
 エ、顔面に焼き印を押された。 ( )  
 オ、首をはねられた。 ( )  
 カ、南三北七にあだまれた。 ( )  
 キ、六宗に憎まれた。 ( )

《語群》

- A, 竺の道生 B, 師子尊者 C, 伝教大師 D, 法道三蔵 E, 天台大師  
 F, 不軽菩薩 G, 釈尊

② 以下の語句はどの經典で説かれた偈ですか。下の語群から選び、記号で答えなさい。

- ア、現世安穩 ( ) A, 無量義經  
 イ、未頭真実 ( ) B, 法華經方便品第二  
 ウ、正直捨權 ( ) C, 法華經譬喻品第三  
 エ、大白牛車 ( ) D, 法華經藥草喻品第五  
 オ、不老不死 ( ) E, 法華經藥王品第二十三  
 カ、正直捨方便 ( )

③ 「安樂行品の如く修行」するとは、どのような修行ですか。簡潔に説明しなさい。

- ( ) ( )
- ④ 「撰折二門」を簡潔に説明しなさい。  
 ( ) ( )

⑤ 次の文は日寛上人が「追記」の御文について述べられたものです。□にあてはまることばを後の語群から選び、記号で答えなさい。

「常に心に□を忘れて、□を思わなければ、心が□に同ずることになる。また、口に□をいわなければ、口が□に同ずることになる。手に数珠を持ち、本尊に向かわなければ、身が□に同ずることになる。ゆえに、□の本尊を念じ、本門寿量の本尊に向かい、口に法華本門寿量文底下種の□の南無妙法蓮華經を唱うる時は、□に折伏を行ずる者となるのである。これこそ□に□を信ずる人なのである」

《語群》

- A, 法華經 B, 一念三千 C, 折伏 D, 法華本門 E, 四箇の格言  
 F, 身口意の三業 G, 謗法



① 傍線アについて、これは何を指しますか。簡潔に答えなさい。

② 傍線イについて、何が説かれていますか。簡潔に答えなさい。

③ 傍線ウについて、顔淵のどのような行動を例示された事ですか。簡潔に答えなさい。

④ 傍線エについて、これはどのような意味ですか。簡潔に答えなさい。

問十 次の「日女御前御返事」（御本尊相貌抄）の御文について、後の問いに答えなさい。

一、次の御文の傍線「以信得入」について、後の問いに答えなさい。

『此の御本尊も只信心の二字にをさまれり以信得入とは是なり』

① この偈の出典を以下に答えなさい。

法華経（ ）品第三

② この偈を以下に書き下し文にしなさい。

③ 法華経で「以信得入」を身で読んだ对告衆（人物）の代表を答えなさい。

二、次の御文の傍線「五種頓修の妙行」について、後の問いに答えなさい。

『此の事伝教大師入唐して道邃和尚に値い奉りて五種頓修の妙行と云ふ事を相伝し給ふなり、日蓮が弟子檀那の肝要是より外に求る事なかれ、神力品に云く、委くは又又申す可く候』

① 「五種の修行」について、簡潔に説明しなさい。

② 「五種頓修の妙行」を簡潔に説明しなさい。

問十一 「日顕宗を破す」について、次の問いに答えなさい。

① 次の御文の [ ] の中に適切な言葉を書き入れ、その御書の名を答えなさい。

「若し善比丘あつて [ ] を壊る者を置いて [ ] し駈遣し [ ] せずんば当に知るべし是の人は [ ] の中の怨なり、若し能く駈遣し [ ] し [ ] せば是れ我が弟子・真の [ ] なり」

御書名

[ ]

② 仏法上の大罪に「五逆罪」があります。「五逆」の四つを答えなさい。

[ ] ・ [ ] ・ [ ] ・ [ ]

③ 宗門が第二次世界大戦中（太平洋戦争中）に犯した謗法行為を二つ挙げなさい。

[ ] ・ [ ]

④ 次の文章の [ ] の中に正しい言葉を書き入れて文章を完成させなさい。

日顕宗では、「法主は大御本尊と不二の尊体である」などと、「法主絶対論（法主信仰）」を立てています。しかし、日興上人は法主も誤りを犯すことを予見され、「 [ ] ( ) で「時の [ ] 為りと雖も [ ] に相違して [ ] を構えば之を用う可からざる事」と仏法違背の法主を用いてはならないと仰せです。また、「先師の如く予が [ ] も聖僧為る可し、但し時の [ ] 或は習学の仁に於ては設け一旦の姦犯有りと雖も [ ] に差置く可き事」と、法主が女性問題を起こした場合の考え方まで指示されています。

⑤ 日顕宗では、「僧侶による葬儀がなければ墮地獄である」などと言っています。次の御文はこの邪義を破折する御文です。 [ ] の中に適切な言葉を書き入れなさい。

「されば過去の慈父尊霊は存生に [ ] と唱へしかば [ ] の人なり」

(御書一四二三ページ)

「故聖霊は此の経の [ ] なれば [ ] 疑いなし」

(御書一五〇六ページ)

⑥ 日顕宗では、「僧俗師弟義」なるものを主張しています。次の御文はこの邪義を破折する御文です。 [ ] の中に適切な言葉を書き入れなさい。

「此の世の中の [ ] は嫌うべからず」

(御書一一三四ページ)

「法師品に若是善男子善女子乃至則如来使と説かせ給いて [ ] も [ ] も [ ] も [ ] も一句をも人にかたらん人は [ ] の使と見えたり」

(御書一四四八ページ)